

平成30年度 施策マネジメントシート【29年度実績評価】

作成：30年6月12日

施策番号 2-1-4	施策名 地域林業の推進	基本目標 基幹産業の農業に対する支援の強化
主管課 施策関係課	農林課	課長名 課長補佐 藤野 元成 内線 410

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果	
森林が持つ多面的機能の理解促進と、機能に応じた森林の整備・保全をすすめます。		町民・町有林・私有林・森林所有者		・森林が持つ多面的な機能について町民の理解を深める ・計画的な保育・造成等により森林を適正に管理する			森林の持つ多面的・公益的機能（災害防止・水源かん養・生物多様性の保全・生活環境の保全・地球温暖化防止など）が発揮される	
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	28年度	29年度	30年度		
① 森林が持つ多面的機能を知っている町民の割合	住民意識調査	%	72.1	85.5	85.9	80.0		
② 適正に管理されている町有林面積の割合	森林調査簿より	%	98.7	99.0	99.3	99.0以上		
③ 適正に管理されている私有林面積の割合	森林調査簿より	%	95.2	94.4	94.6	96.0		
成果指標設定の考え方	①森林が持つ多面的機能を理解したと思われる町民が急に増えるとは思われないため、当面の間は80%を目指すものとする。②すでに99.2%に達しているため、今後は限りなく100%に近い適正管理面積を目指すものとする。③後期実施計画から町有林と民間所有の私有林の適正管理面積を分割した。木材市況が不安定な状況や所有者の意向に左右される側面もあるが、啓発活動等により現状より約1%増の96%を目標に設定							

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費（千円）	34,873	36,783
人工数(業務量)	0.8030	0.7982

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 平成29年度の成果評価（前年度比較）	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	町有林の施業については、ほぼ計画通り実施している。植樹祭の案内と同時に、森林の持つ多面的機能の周知をし、森林の重要性への住民理解を推進する機会となつた。
② 平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・適正な管理に関する指標について、町有林については予算を確保し、各種計画に基づいて実施しており、目標達成している。 ・森林が持つ多面的機能の町民理解については、近年の風水害に対応する森林の重要性が認知されてきたと考えができるが、森林環境税導入に伴い、さらに理解を深めていく。 ・私有林については、引き続き所有者自らが整備に取組むことを促していくが、着手できないケースも多い。新たな森林管理システムの創設が予定されており、私有林整備への推進が期待できる。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有林管理事業 ふるさと森づくり事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	・町有林管理事業、民有林振興事業とともに、補助制度などを活用しながら適宜、必要な施業を実施した。 ・地図情報のデータ化が実現し、今後、農業振興地域や林班地域管理の効率的な事務推進とサービス向上が図られる。 ・ふるさと森づくり事業は森林の重要性にかかる意識啓発を目的に、「町民植樹祭」を行った。今後の啓発事業の検討が必要である。 ・森林管理には林道の整備も重要であり、計画的な維持管理を実施している。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した
- C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した
- D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない
- E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	東日本大震災、原発事故、本町における昨年の台風被害などの影響から、森林の重要性や環境保全、多面的機能が再認識され始めている。町有林管理にあたっては国の予算も増加傾向であり、森林整備に取り組みやすい環境となってきたところ。森林環境税の導入に伴い新たな森林管理システムが創設され、これまで滞っていた民有林整備を推進していくとしている。本町においても、これらの新制度を踏まえ、森林組合などとも連携を図りながら民有林整備を推進する活動を行っていく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

●課題① 森林所有者への周知・啓発

町有林、私有林とともに、近年の風雪による森林被害が増加している状況。労務単価の増大などにより、維持管理に関する費用が増加していく傾向にあると考える。特に私有林については、補助事業などの活用を含めて、森林所有者への周知・啓発活動を推進すべきと考えている。

●課題② 森林管理法に基づく森林の適正管理

新たな森林経営管理制度の創設に伴い、「林地台帳」を整備と、森林環境譲与税を活用した森林整備を進めていかなければならない。

●課題③ 周知・啓発事業の見直し

森林の持つ多面的機能を周知する事業として、「植樹祭」、「育樹祭」、「昆虫観察会」を実施してきたが、参加者の固定化、町有林における植樹・育樹箇所の減、昆虫観察会の手法検討などの課題があるため、今後のあり方について、引き続き検討していきたい。

6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	適正な管理がなされており、順調に前進していると言える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	私有林については森林組合と連携のうえ、適正な管理を推進してもらいたい。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した	C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した	D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない	E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した	

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価と同じく前進していると評価する		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	特になし	A: 実現した	B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した	C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した	D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない	E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した	